

回 答 書

地区名：松山

東松山市農業振興基本計画の策定に当たり、多様な担い手の育成・確保（人づくりの視点）の観点から、今後、東松山市が取り組むべき事項について、各地区で御議論いただきまして、下記に 1 つだけ挙げてください。

東松山市が取り組むべきこと

- ① 多様な担い手を募集する（主婦・定年退職者・興味がある人）
- ② 担い手が利用できる土地を探して、明示する。
- ③ 担い手を補助する機構を作る。

理由その他補足等について

- ① 多様な担い手とは現在のような都市近郊の地域で、農業で生計を立てるのは困難であり、生活のうらおいを生む、農業でありたいと考える。
- ② 多様な担い手が簡単に土地を探せるように、土地に貸し出し可能地などと表示し、借用するハードルを下げる。
- ③ 担い手は、農具など高価なものは持てないので、それを補助する機械・人を用意する。（農業公社を発展させる）

回 答 書

地区名：大岡

東松山市農業振興基本計画の策定に当たり、多様な担い手の育成・確保（人づくりの視点）の観点から、今後、東松山市が取り組むべき事項について、各地区で御議論いただきまして、下記に1つだけ挙げてください。

東松山市が取り組むべきこと

- ・新規就農者が作付けすべき推奨作物の調査選定

理由その他補足等について

- ・新規就農者の経営基盤安定化を図るためにも、推奨作物の販売経路の拡張や消費者への周知を図る事も大切である。

回 答 書

地区名： 唐子地区

東松山市農業振興基本計画の策定に当たり、多様な担い手の育成・確保（人づくりの視点）の観点から、今後、東松山市が取り組むべき事項について、各地区で御議論いただきまして、下記に1つだけ挙げてください。

東松山市が取り組むべきこと

1)東松山市で新規農業を手掛ける際に、どこで何を作ったらよいかを明確にアドバイスする

理由その他補足等について

- 1) 稲作をやりたい人がきたら、どこにどれだけの水田があるかを把握し教える
- 2) 畑作は、作りやすい作物選定しそれに特化し作るように教える（白菜・キャベツ）は、餃子の王将が買い取りしてくれる）
ホホワイトコーンは、東松山市の特産品となっているとの事
ブロッコリーは、国の指定を受けたので作りやすい
- 3) グループの活用・・・ネクスト（50歳以下の集団）
戦略作物研究会年齢関係無い
- 4) 各部署との連携が必要（行政・JA、農地中間管理機構）

回 答 書

地区名： 高 坂

東松山市農業振興基本計画の策定に当たり、多様な担い手の育成・確保（人づくりの視点）の観点から、今後、東松山市が取り組むべき事項について、各地区で御議論いただきまして、下記に1つだけ挙げてください。

東松山市が取り組むべきこと

農業に魅力を示し、多様な作物を栽培してみたい人、新規就農希望者の相談窓口を農政課に常設する。

理由その他補足等について

相談窓口で受けた内容により、作物栽培方法等の知識を覚えていただけるように、専門農家等を紹介し、勉強のための支援をする。引き受けていただいた農家には、人材育成資金として補助金を出す。

回 答 書

地区名：野本地区

東松山市農業振興基本計画の策定に当たり、多様な担い手の育成・確保（人づくりの視点）の観点から、今後、東松山市が取り組むべき事項について、各地区で御議論いただきまして、下記に１つだけ挙げてください。

東松山市が取り組むべきこと

野本地区の特性から稲作農業での提案をいたします。
現行の農業ビジョンは規模の拡大にやや趣を置いているが、現在の規模拡大では農業者に何らかの事故があった場合等リスクが大きすぎ農業経営の基盤強化が求められる。このことから、中規模農業にフォーカスを当て「**農業プラス１**」でプラス１は農業以外に収入があり、いわゆる中規模兼業農業で新たな就農者を確保する。この時行政は担い手に各種の支援を制度化する。

理由その他補足等について

現在の農業を規模別に、●タイプ１として５０ａ前後の従前からの一般的兼業農家
●タイプ２として２ha～５ha前後の最近の兼業農家、●タイプ３として１０ha～２０ha程度の専業農家、●そして３０ha以上の大規模農業に大別される。

このように規模別にみた場合、新規の担い手はタイプ３とタイプ４は農機具の初期投資、土地の確保、技術面等で不可能であろう。また、タイプ１では規模が小さすぎる。多様な担い手の確保はタイプ２にフォーカスを当てて考える。

キーワードは「**農業プラス１**」つまりは農業の他に会社からの給与、年金、自営業野菜生産等の収入が存在すること、稲作のみで生計を立てるのは大変である。これは都会に近い首都圏型農業として位置付けられる。

この「農業プラス１」の新しい就農者に対して行政は辞めていく農家の引継ぎを制度化し、安心して任せられ、かつ、既存の農機具を有効活用する。

次のキーワードは「**チャレンジしたくなるような稲作農業の促進**」、これは従前の稲作とは違って新しい農法で、かなりの省力化が期待できる。

たとえば

- ・田植えをしないコメ作りで種を直接田んぼに播く方法。
 - ・水を張らない田んぼに直接種を播く方法、メタンガス排出削減も期待出来る。
 - ・ビール酵母等を種もみに混ぜ根の成長を促し二度の収穫するなど収穫量を増やす
- これは温暖化を逆手に利用する方法でもある。

これらは、すでに全国で実証実験が行われているので行政は積極的に視察研修を計画し、新農法への切り替え目標を設定する。

また、このチャレンジに対して行政は最低収穫支援制度や新農法に必要な農機具購入支援制度等を考える必要がある。

以上が第二次東松山市農業振興基本計画の多様な担い手の育成・確保に対する野本地区からの提案です。

さらに、これを能動的に進めて行くのであれば、次のような農業問題以外の他の問題解決と一緒に進めていく事も考えられる。

- ・今、都心あるいは都心に近い地域の土地価格及び家賃が高騰していることから通勤可能エリアへの移住を考えて人が多いと思われる。
- ・一方で空き家がますます増えていることも現実である。

このことから、移住促進チームと空き家対策チームと合同チームを結成し、前述した首都圏型農業を推進し、担い手の確保を図る。

以上